

文書番号：2023-K-027  
2023（令和5）年12月吉日

## 2022（令和4年）年度ペットフード産業実態調査の結果について

一般社団法人 ペットフード協会

ペットフードメーカーなど、91社（正会員51社、賛助会員40社、2023年10月1日現在）で組織する一般社団法人ペットフード協会【東京都千代田区、会長：児玉 博充】は、2022（令和4）年度（令和4年4月1日～令和5年3月31日）ペットフード産業実態調査を行い、その結果が以下の通りまとまりました。詳細に関しては別紙資料をご参照願います。

調査の結果、ペットフード産業の出荷総額は387,546百万円で、対前年度比は110.1%と、7年連続での増加となりました。今期は商品構成の改善に加え、原材料等の値上がりを受けた出荷単価の上昇の影響もあり、直近3カ年の出荷総額の成長率は前年比105%前後でしたので、それと比較すると、高い成長率となったと推測される。一方、出荷量は、飼育犬の減少などを背景に、586,179トンとなり、対前年度比98.6%と減少しました。

主要点は以下の通りです。

### 1. 出荷金額：用途別

犬用の出荷額は対前年度比110.7%と増加し、猫用の出荷額も対前年度比109.7%と増加しました。

犬・猫用を除く、その他のペット用も出荷額は、対前年度比108.8%と増加しました。

### 2. 出荷金額：製品タイプ別

犬用は全体の50.6%を占めるドライタイプの出荷額は対前年度比111%と増加しました。全体の16%を占めるウェットタイプの出荷額は対前年度比106.6%と増加しました。

猫用は全体の48%を占めるドライタイプの出荷額が対前年度比113.4%と増加しました。全体の45.7%を占めるウェットタイプの出荷額は対前年度比105.1%と増加しました。

### 3. 出荷数量：国内生産品と輸入品別

国内生産品の出荷量は対前年度比99.2%と減少しました。輸入品の出荷量も対前年度比97.9%と減少しました。

#### 4. 出荷数量：用途別

犬用の出荷量は対前年度比 97.2%と昨年に続き減少し、猫用の出荷量も 2014 年度以来、8 年ぶりに 99.5%と減少に転じました。

犬・猫用を除く、その他のペット用の出荷量は対前年度比 100.5%とほぼ横ばいでした。

#### 5. 出荷数量：製品タイプ別

犬用は全体の 65.7%を占めるドライタイプの出荷量が対前年度比 96.2%と昨年に続き減少しました。全体の 12.8%を占めるウェットタイプの出荷量も対前年度比 99.3%と減少しました。

猫用は全体の 62.7%を占めるドライタイプの出荷量が対前年度比 101.7%と前年に続き増加しました。全体の 35.2%を占めるウェットタイプの出荷量は対前年度比 94.4%と減少しました。

#### 6. 出荷数量：国内生産品 用途別

国内生産犬用の出荷量は対前年度比 98.3%と昨年に続き減少しました。

国内生産猫用の出荷量は対前年度比 99.6%と減少に転じました。

国内生産のペットフード合計は対前年度比 99.2%と減少しました。

#### 7. 出荷数量：輸入品

輸入品犬用の出荷量は対前年度比 96.2%と昨年に続き減少、輸入品猫用の出荷量も対前年度比 99.4%と減少しました。

輸入品のペットフード合計は対前年度比 97.9%と 減少しました。

#### 8. 国別輸入数量

今年度、国別輸入量の最大は、タイでした。次いで、アメリカ、フランスの順でした。輸入国増減率では、タイ、オーストラリア、韓国、オーストリアからの輸入量が増加しました。

一方、アメリカ、フランス、中国、オランダ、チェコ、カナダ、ニュージーランドからの輸入量は減少しました。

以上